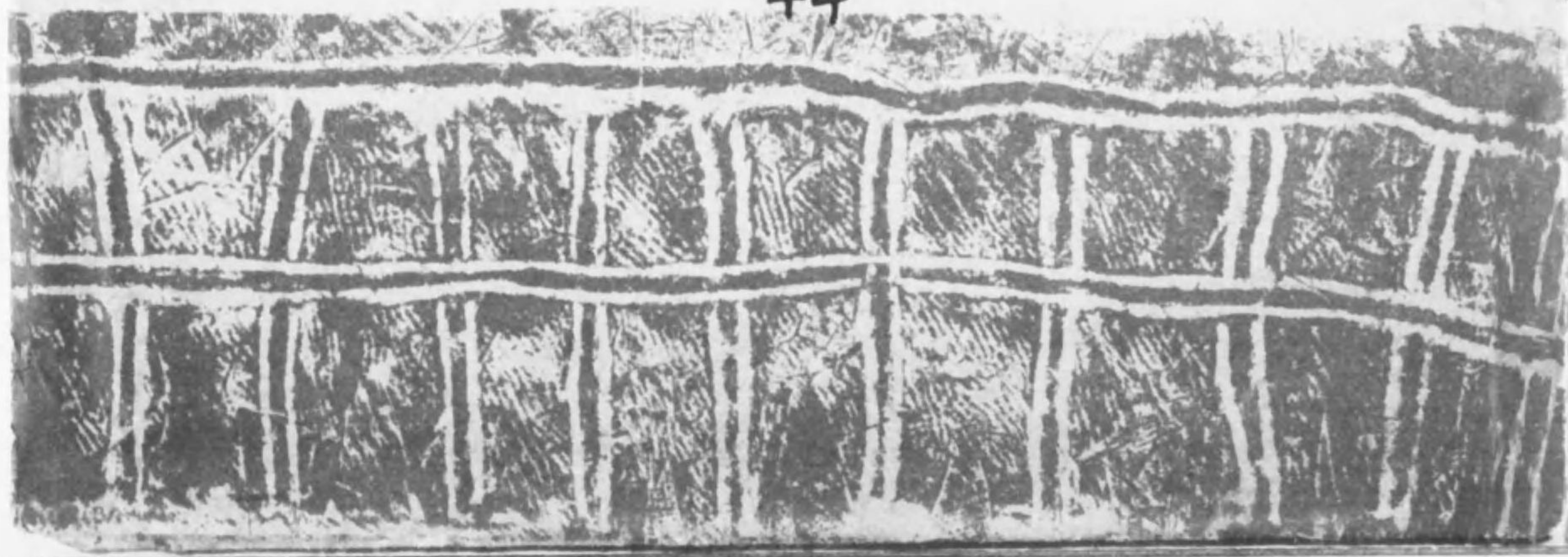


279
77

原始文様集

第九輯



始

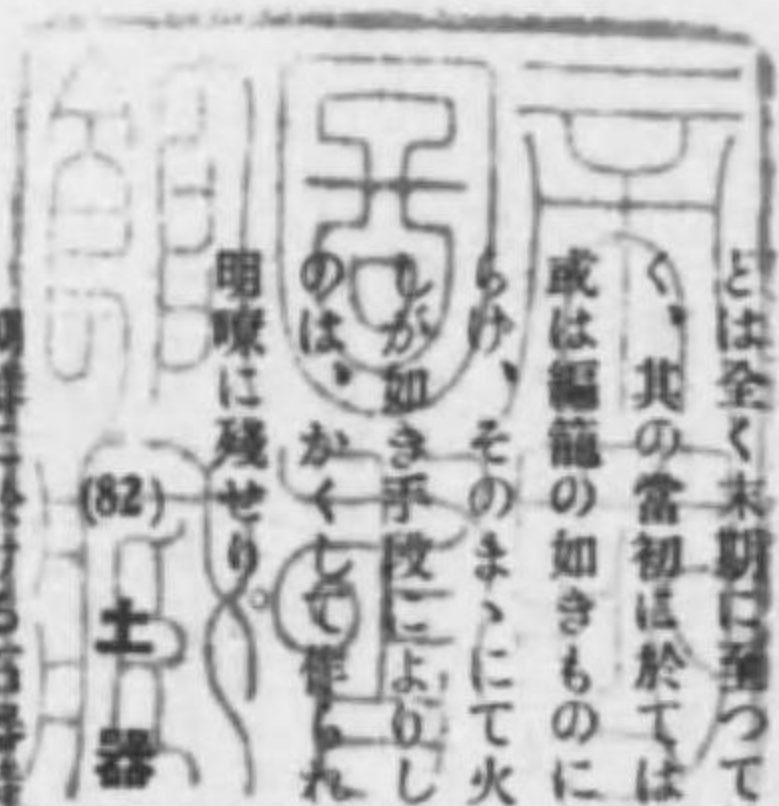


原始文様解説

第九集

(81) 鉢形土器

我が上代人の土器製作にあたっては、轆轤を使用するこ
とは全く末期に達して始めて之を他より傳習せしなるべ
し、其の當初は於ては、所謂手扶の法も用ひられなるべ
し、或は編籠の如きものに粘土を押しつけ、中を篋等を以て平
らに、そのまゝにて火熱してその外籠の焼け落つるを待ち
しが如き手段によむしものもありしなるべし。本圖版のも
のば、かくして製せられたる土器を示すものにして、面に籠目を
明瞭に残せり。



(82) 土器破片

朝鮮に於ける石器時代土器は、其の發見せらるゝもの著
しく數少く、かつ朝鮮のものは、彌生式土器系統のものに
して、文様の如きも、素文のもの多く、直線文の多少存する
に過ぎず、しかるに北鮮、咸鏡道の地に入つては、繩文類
似の土器を發見することあり。本圖版のものは、北鮮に於

(1) 第九集解説

ける大貝塚の一たる雄基貝塚發見のもの、孰れも徑五六寸
乃至七八寸の間にある鉢形土器の口縁部にして、共に一々
篋先きを押しつけて繩文類似の文様を作りしもの、土質
は砂利を多く含み、且つ製作は厚手なり。以て朝鮮北部に
於ける原始土器の文様の全體を推知し得べし。

(83) 壺形土器

壺形の肩部に施されし文様にして、一見、吾人の注目を
惹くは、これが直線と弧線とより成り、吾人の直線と呼
ぶ文様とその組成に似たるものあることなり。直線と呼
ぶ我が上代人の好んで用ひしもの、奈良時代以降には、
の嗜好なかりしが如きも、土代に於いては、分布よ見て
も、北は陸前にまで及び、西は九州に盛んに行はれたる。
繩文土器製作者と、直線文を好んで用ひし日本人と、異
て血の關係ありや否やは之を後日に決すべきものとする
も、本圖版の如く、所謂繩文土器に、かく直線文に似たる
文様あるは、興味深き事實なるべきか。

(84) 壺形土器

外形に於いては、何等特異のものを見ざるも、文様に面
白きものあり。即ち文様拓本上部のものは、繩文土器に數

大正 13.9.9 内文

少き直線文にして、ただ直線を以て闊の如き格子文を描けり。その描法、まづ上下二横帯を、各二線づつ、並行して刻じ、次に之に直交して縦の線を、亦各二線づつ、並行して刻じ、その結果各中央に残れる凸線のみを磨き消し、他は細かき繩文地をのこせり。

圖版右側の壺は、一種の絡繩文を斜めに略ぼ平行して刻せしもの、而して繩文地を用ひず、面をよく磨きたり、小形の壺をかく肌地を磨いて、流暢なる曲線を以て自由に絡繩文を刻せしものなるを以て、製作當時には愛玩すべき器の一たりしことを想察するに難からず。

(85) 皿形土器

淺き皿形土器の底面を削して描けり。而してその文様を見るに、一單元のものを、中心を核として繰返せしが如きも、之を稍変するに必しも然らず、即ち一單元を先づ描き、その頭上を沿ふて更に一凸線を描き、而して次に先きの單元を繰返さんとせしも、場所の狭き爲め、省筆の止むを得ざりしに至りしが如し。かかる文様表現の心理に、我が原始民の特質を窺ふべきなり。

(86) 土製動物模型

我が石器時代人も、極めて稀には、動物の模型を作りしが如し。されどこれを宗教的對象のものとして用ひしか、殊に一種のトーテムの標象として用ひしか、或は玩具として之を作りしか、その用途に至つては、直ちに決すべからざるものあり。

圖版上部右側のものは犬なるべく、陸奥國中津縣郡高杉村大字十腰内發見、その左は蛇面なるべし、頸部に鬚形を刻せり、陸奥國中津縣郡高杉村大字十腰内發見、共に神戸久原房之助氏所藏。圖版中央の猿首は、陸奥國桃生郡前谷地村大字前谷地實々家發見、齋藤養次郎氏所藏。圖版下部は熊にして、右は正面より望み、左は横より見たるもの、毛利徳七郎氏所藏。歐羅巴舊石器時代には、動物を描く技に於いて、殆んど入神の趣あり、世人の驚嘆するところなり、我が石器時代人、亦この動物形を作る技に於て凡ならざるものあり。興味ある事實といふべきか。

(87) 鮎形及榮螺形土器

原始人が、或は貝類、或は樹葉又は果實の殻の類等をも、のま、飲食の器として用ひしことの多かりしは、想察するに難からず。而して、轉じて土器を作る技術の進みし時に當つても、往々その原型を貝類又は果實の殻に求めしもの

あるも當然の事實なるべし。本圖版右のものは、殆んど實大に作られし鮎形土器を上及び側面より望みしもの、よく原物の趣を捉へしものとして、既に學者の注意し來りしもの、圖版左の榮螺形土器、亦よく作られたり。

(88) 瓶形土器

腹部と底部とは一線を劃して之を分かち、文様をも異にせり。腹部は帯文様にして、大體同一の連環を繰返せり。本土器は、外形より見るも、又施文の手法より見るも、秋田地方に於いて時に之を見るもの、一見、巖窟の感を與ふ。

(99) 瓶形土器

拓本は底部より腹部へかけて文様を現はせり。

(100) 變形土器

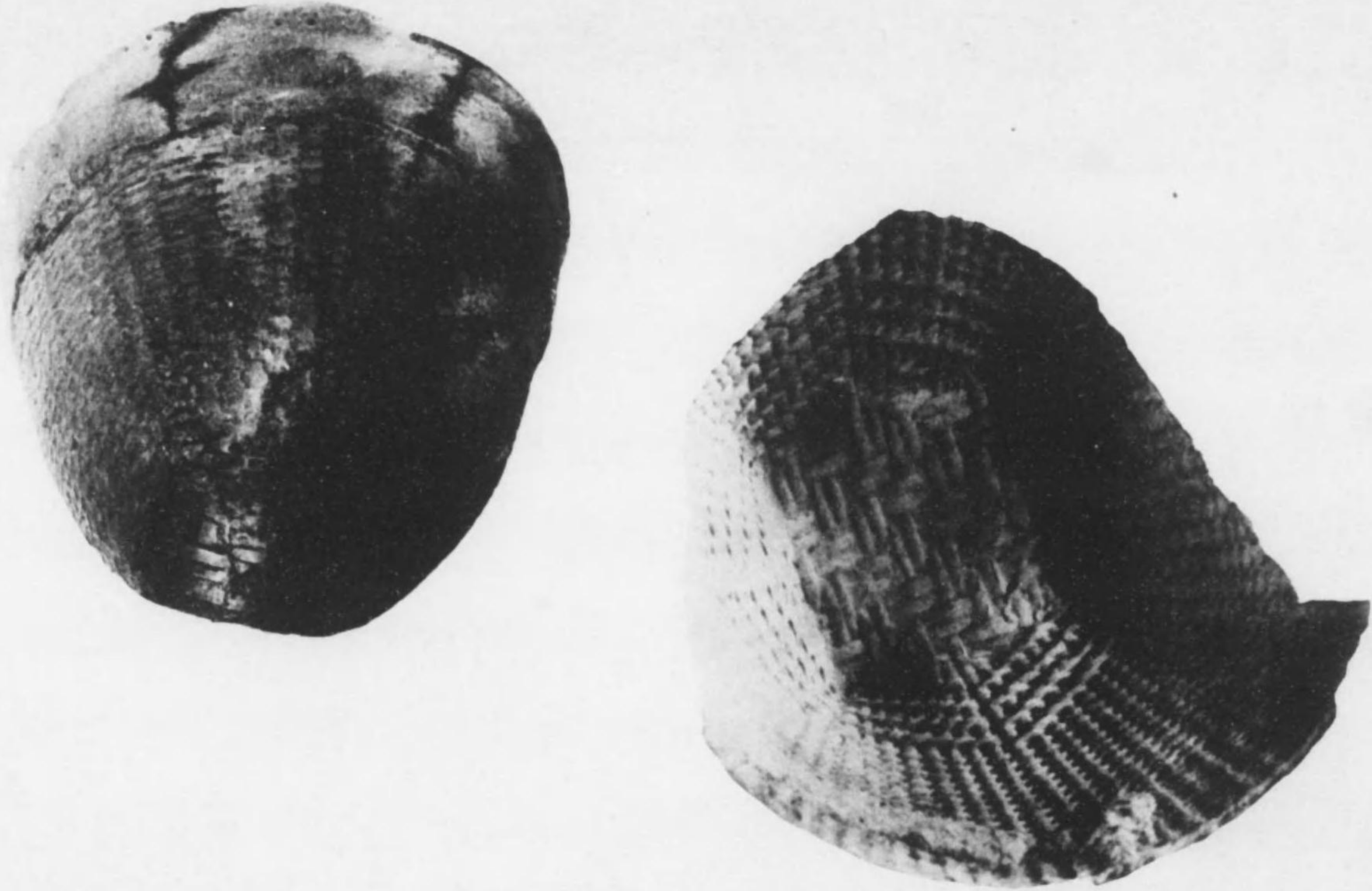
南齊文庫所藏のものは、總高五寸二分、上部の口径三寸五分。香爐形土器に似たるものもあるも、多少趣を異にするものあり。底部は柄を伏せたるが如き形を呈せるが、其中腹に橢圓形の窓を有し、更に其の上部に小さき圓形を穿てるあり、腹部の兩側に突出せるものは土瓶の口など、同じく空胴にして腹部に通じ居り、また別に腹部には小孔を

有せるを以て、全く流動物の容器とはなすべからず、次に上部は、大體底部と裝飾を同じうせるも、更に上縁に小突起を附せり。

圖版左のものは、總高さ五寸二分、身は梯形の透しを打違へに並べ、各々その中央に圓環をつけたり。而してこの圓環と一列をなすべく口縁部にも小圓環をつけて口縁の裝飾とし、身の腹部にも小突起をつけたり。腹部の透文様も身部と同一趣向に出で、只之れを狭くして横長くせるのみ。

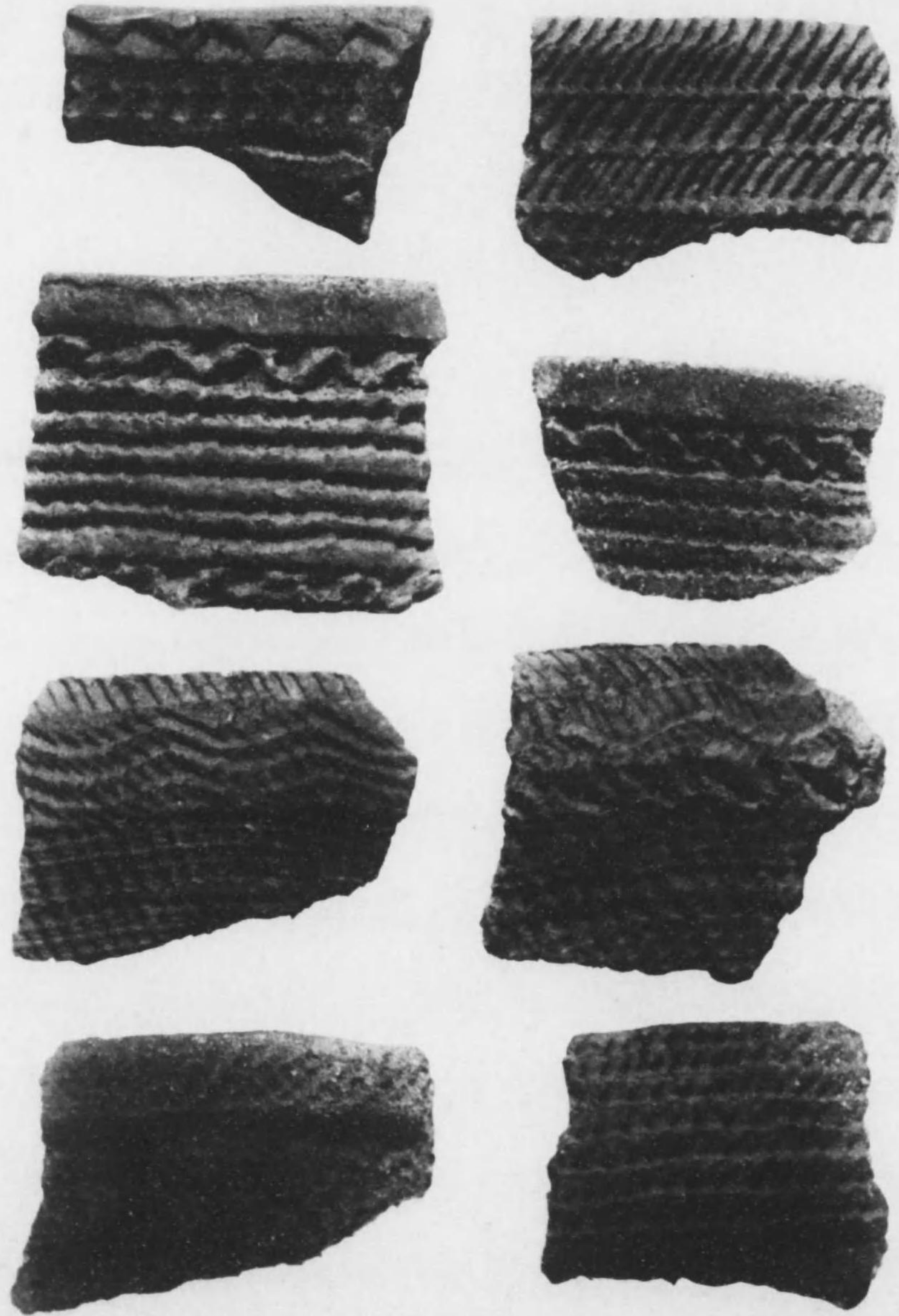
器 土 形 鉢

凡登村原木部款相國造常(左) 凡登府國字大村寺明道郡内河内國内河(右)



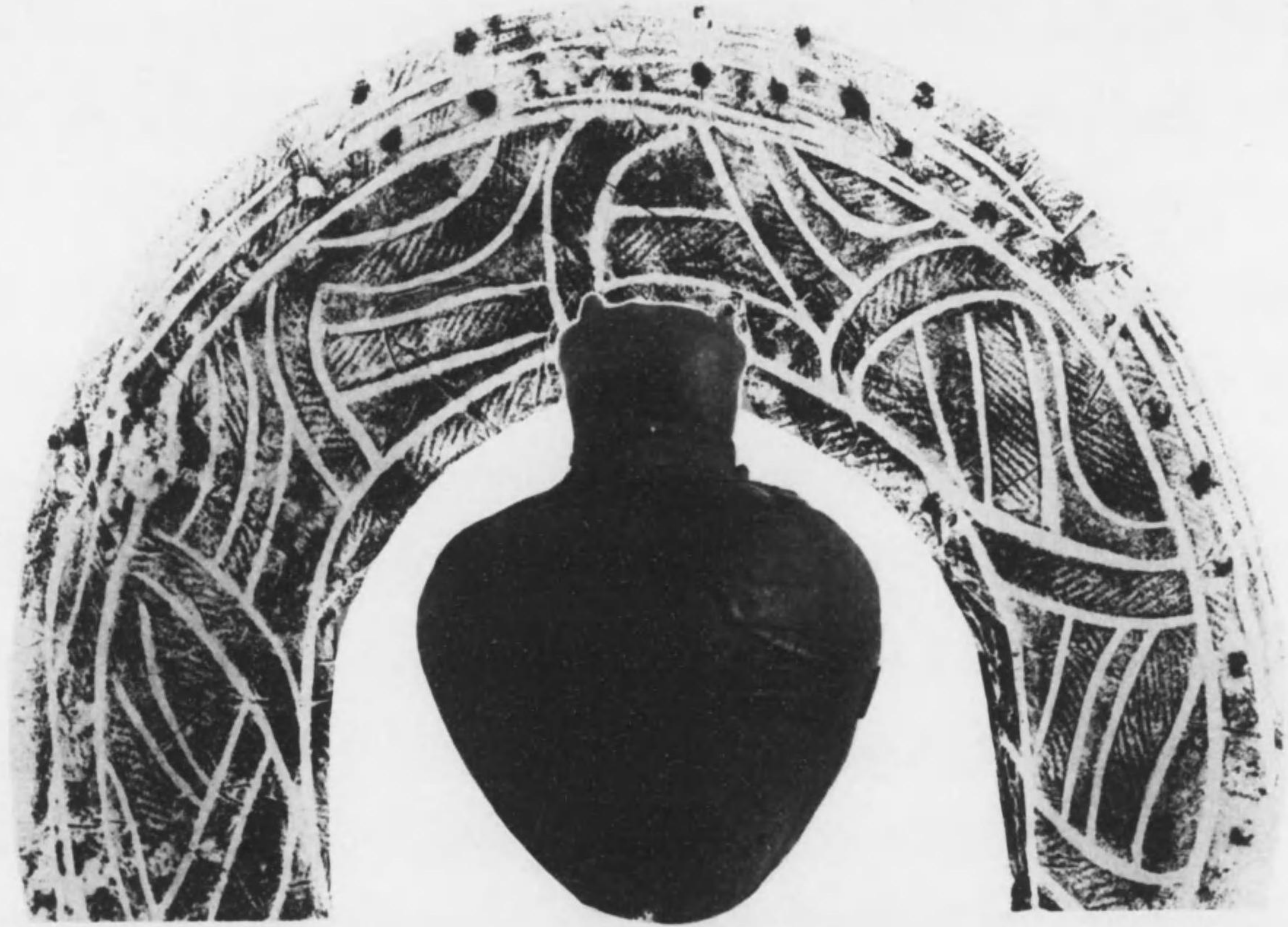
藏所庫文炎南 京東(左) 藏所氏一彦山水 坂大(右)

(見發掘具基城道北鏡成封物)



(藏所館物博職王李 鮮朝)

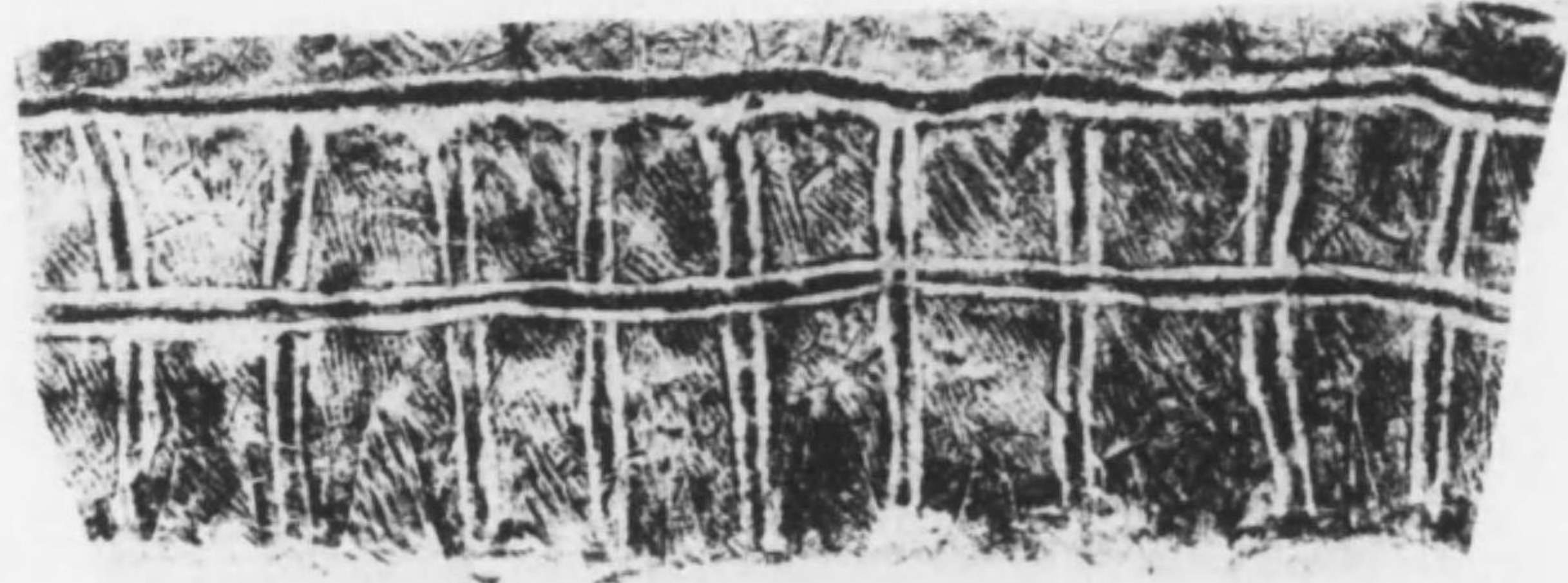
器土形壺
(見後澤園十村野禮記中國美術)



(藏新長助之博厚久 戶神)

器土形壺

見發船字大村繪竹器同國同(左) 和石字大町木船器津南國同陸(右)

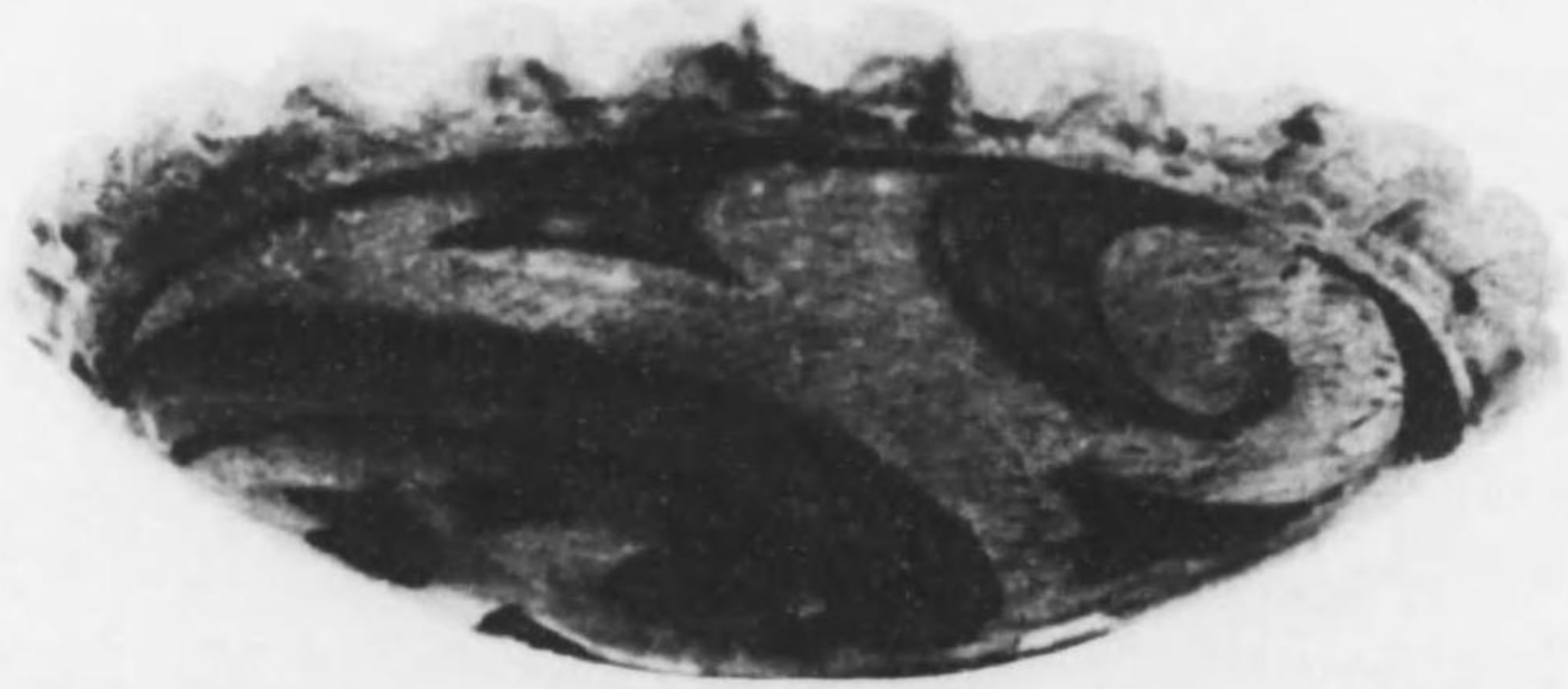


(藏所武助之房原久 戸神)

器土形圓

85

(見發峰+寶地谷自字大野地谷前部土坑國印跡)



(藏所氏部次養羅書 印跡)



器土形螺殼及形胎

(見發田福部町長束國地下 形螺殼) (見發塚村田高郡敷相國地常 形胎)



(藏所氏男澄澤中 京京 形螺殼) (藏所會濟共郡下 形胎)

器 上 形 狀

(京會山根野字大村合落窪田秋北國波影)

五



(藏所武三善本於京東)

器 上 形 瓶

(凡登山根朝宇大村合原部田橋北園後刊)

59



(藏所長三寄木館 京東)

香爐形樣土器

(左) 常陸國船橋郡大頭村田登見 (右) 下總國上野郡山田村登見

90



(左) 水谷乙次郎氏所藏 (右) 南葵文庫所藏

原始文様集刊行の趣旨

文様の研究は古代の文化を語るものとして極めて重要な地位を占むるのである。古代民族は彼等の思想をその文様藝術の上に如何に表現してゐたか、彼等の生んだ藝術は果して如何なるものであつたか、これらの検討はたしかに興味ある問題であらねばならぬ。而して歐米人も讚嘆して止まぬ我が文様の中に於ても、石器時代になつたものは一種の異彩を放つてゐる。嘗にそれが原始的な氣分に溢れてゐるといふだけではない。その手法に於ても原理に協ひ、組立に於いても現代人の到達し得た域に到達してゐるのに驚かされるであらう。隨てこれが研究は好事家の好奇心を満足させるのみではなく、其特色は必ずやよく現代の行き詰つた文様に清新にして該切なる刺戟と暗示を與へるであらう。

東京帝國大學教授文學博士鳥居龍藏氏及び東京帝室博物館歴史課長高橋健自氏は本圖集の編輯監督として其蘊蓄を傾注せらるゝのみならず、尙京都帝國大學教授文學博士濱田耕作氏も亦多大なる援助を與へらるゝが故に、本圖集はよく其完璧を期するを得、材料としては日本の隅々に互つて其古代代表作を蒐集し、且これが實物の寫眞と文様の剖展とを掲げ、以て、手法の上に於いても組み立に於いても遺憾なき程度の紹介を試んとするものであつて、藝術並に文化の上に裨益すること多大なるべきは吾人の確信することである。

原始文様集刊行規定

- 第一款 本圖集は一定の組織に基き原始時代の石器、土器文様を系統的に蒐集して寫眞圖及拓本をコロタイプにて印刷するものとす
- 第二款 本圖は每葉四六倍判大のコロタイプ圖版拾葉を以て壹冊を刊行す
- 第三款 本圖は拾二冊を以て原始時代號の完結として大正十二年十一月より大正十三年十月迄を其刊行期間とす
- 第四款 本圖集は非賣品にして會社にのみ頒布するものとす
- 第五款 本圖集は每冊解説書を添附す
- 第六款 本會々員たらんとする人々は所定の申込書に會費全期分又は第一四分を添へ其旨本會へ申込まるべし
- 第七款 但し諸官衙官公立學校圖書館等は會費後拂特別扱の請求に應ず。
- 第八款 本會々費左の如し
- 第九款 登時納入 金拾六圓五拾錢
- 第十款 拾回納入 金壹圓五拾錢
- 送金は成るべく振替口座東京四一〇二四番へ拂込まるべし

不許複製

大正十三年八月一日印刷
大正十三年九月五日發行

(第九輯)

編輯者 杉山壽榮男
發行所 東京市牛込區市ヶ谷河田町十一番地
印刷所 東京市牛込區矢來町三番地
右代表者 東京市本橋區島四丁目二十番地
大塚巧藝社
東京市牛込區矢來町三番地
田村壯次郎
大塚巧藝社

發行所 東京市牛込區矢來町三番地
工藝美術研究會
大塚巧藝社

發行所 東京市牛込區矢來町三番地
工藝美術研究會
大塚巧藝社

發行所 東京市牛込區矢來町三番地
工藝美術研究會
大塚巧藝社

終